

この本を手にとってくださったすべての方々へ

あこがれや志を持っていると、人は、輝きながら生きていくことができます。まだ見ぬ遙かなものや、まだ在らぬ未来の私に思いを馳せ、自らの可能性を磨いていくことができるからです。

あこがれや将来への志を持つには、「あの人の生き方に胸を打たれた」「この人の思いに共感した」など、心の中に、あこがれや志の種を蒔くことが大切です。

種は、いつ蒔かれるのでしょうか。

それは、「なりたい人」や「知りたいこと」など、あこがれや志の対象と出会えたときです。出合いの形は、人それぞれです。ただ、共通して言えることもあります。それは、立ち止まったままで叶う出合いはないということです。

今の自分から一歩踏み出さなければなりません。その一歩のひとつが、読書であり、読書を通した様々な人々の生き様との出合いなのです。

「長崎っ子に贈る50の話」は、そのような出合いを日常のものとする一冊として、伸びようとしている子どもたちの一歩を応援するために発刊しました。

執筆者は、いずれも本県に縁のある方ばかりです。

児童・生徒の皆さんには、ぜひ読んでいただきたいと思えます。一つ一つの話に触れることで、今まで気づかなかった自分の可能性を見つけることができるものと確信します。

保護者の皆様や先生方には、家庭での読書や学校での教育活動などで、活用していただきたいと思います。そして、子どもたちに、ご自身のあこがれや志を語るきっかけにいただければと思います。子どもたちがあこがれや将来への志を抱くうえで、最も身近なモデルは、保護者の皆様や先生方なのですから。

最後になりますが、「長崎っ子に贈る50の話」の執筆・編集に、ご尽力をいただいた関係各位に深く感謝の意を表しますとともに、本著が県内すべての子どもたちに広く親しまれ、あこがれに満ち、高い志を抱く「心豊かな長崎っ子」が育まれることを心から願っております。

平成二十一年三月

長崎県教育委員会教育長
寺田 隆士